高崎高校新聞

翠巒
Mini Press
第190号
2025/8/21

編集・発行
高崎高校新聞部

伝統と革新の融合
翠巒祭

巨大壁画が世界記録達成

高崎高校（以下高高）では、毎年、翠巒祭（文化祭）が開催される。昭和23年から現在に至るまで続けられており、今年で73回目を迎えた、高高の伝統ある行事の一つだ。運営には、実行委員会を中心として、全校生徒が主体となって携わっている。

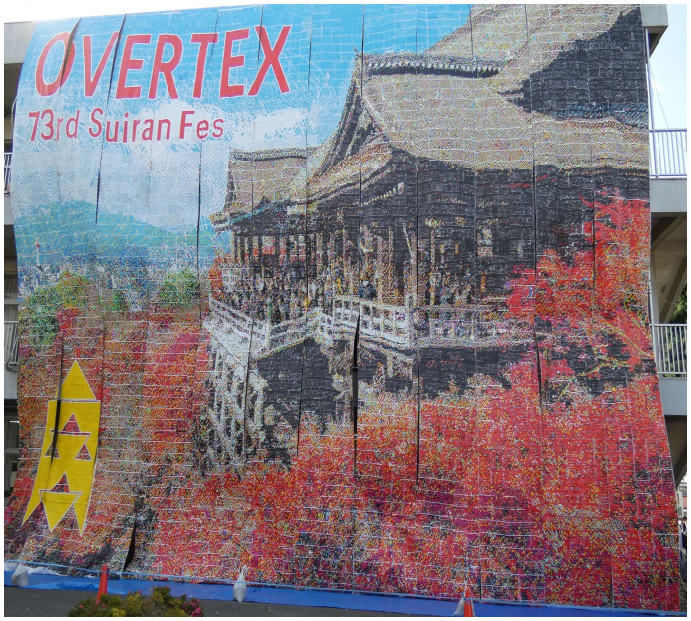
今年は、入場無制限開催が再開されて2年目となった。これまでの翠巒祭を超えようと、今年も様々なことに挑戦した。

翠巒祭は、高高で毎年開催される文化祭である。例年、来場者数は1万人を超え、県下最大の規模を誇る。当日は、模擬店、クラスや部活動の展示、イベントステージ、体育館行事など、様々なイベントが開催される。

翠巒祭の運営は、15の班、23の課で構成される実行委員会を中心として、生徒主体で行なわれる。実行委員会は翠巒祭の運営に欠かせない存在だ。

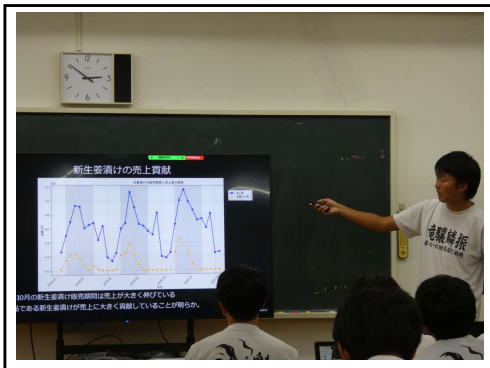
中でも、校内の装飾は翠巒祭の目玉の一つだ。正門前のアーチ、校舎入口のエントランスグラフィック、フォトモザイクなどの装飾は、来場者を楽しませる。

また、紙を張り合わせて作るモザイク壁画は、今年、世界記録を達成した。モチーフは、「音羽山　清水寺」で、総面積は246・07㎡に及ぶ。そこで、制作の中心であった実行委員会壁画班の前チーフ、清田侑希くん（3の1）と新チーフの大阿久智温くん（2の4）に話を聞いた。清田くんは、「友人から、ある高校の壁画が世界記録を達成したことを聞いた。本校の壁画は、先輩方から代々日本一大きいと伝えられてきたため、世界記録を目指せるのではないかと思い、挑戦を決意した」と世界記録挑戦のきっかけを語った。記録を達成したことについては、「完成までには、資金や時間の面で様々な困難があった。達成の知らせを聞いたときは、安心感が広がり、うれしさも感じた」と述べた。大阿久くんは、これからの壁画制作の展望を、「来年度も今年のサイズを維持して壁画を作っていきたい。また、学校で蓄えていた資材の減少や、作業場所の制約といった課題があるため、先輩方の助言をもとに、班員と協力して作業を行ないたいと思う」と話した。（岡部）



面積が世界記録として認定された壁画

SSHの探求活動からの学び



発表する３年生

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の最終発表会が、7月10日に行なわれた。そこで、身近な社会問題である、認知症の早期発見に関する研究をした吉ノ薗陽向くん（3の1）に話を聞いた。

始めに、開発した作品「ロボット・みまもりくん」について、「このロボットは、AIによる自然な会話と、高齢者の危険を感知する見守り機能、地域社会を紹介する機能に加え、独自のAIにより、会話から認知症の早期発見を行なえる」と説明した。

研究を始めた理由について、「認知症を会話から発見できないかと考えたからだ。近年、高齢者、特に1人暮らしの方の認知症が問題となっている。認知症は早期発見が重要だが、1人暮らしの人にとって、病院の検査や地域社会への参加はハードルが高い。そこで、高齢者の話し相手として、今、注目を浴びている会話ロボットに着目した。また、私は祖父が認知症になり、十分に会話をできず亡くなってしまった経験があり、認知症に対する関心もあった」と語った。

本研究を通しての感想として、「この研究は自分1人で取り組んだが、他の方達の協力なしには発表までこぎつけられなかったため、感謝したい。今後は、本研究で扱ったビッグデータの解析を軸に行ないたい」と述べた。（土屋）

「世界の今を知ることができる」
ハワイ研修の目的と期待

行き先の一つ、ハワイ火山国立公園

高高では、毎年7月に2年生対象の海外研修を実施しており、近年はボストンとオーランドで行なわれている。

今年度はそれに加えて、1・2年生を主な対象にしたハワイ研修が11月30日から12月6日にかけて実施される。この新たな試みについて、担当の小林量先生に話を聞いた。

まず、実施の目的を聞くと、「SSH指定校として、さらなる国際性の強化が必要だと考え、今回の新規事業に踏み切った。従来の海外研修とは別の日程・場所で海外研修を行ない、海外への視野を広げることを目指している」と答えた。

次に、研修の日程について、「研修の前半はハワイ島のヒロで、マウナロア火山を有するハワイ火山国立公園や天文台に赴き、自然環境調査を行なう。後半はオアフ島へ移動し、現地のミッドパシフィック高校の学生との交流、ハワイ大学の授業や施設の見学をする」と話し、現地での交流については、「まだ何をするか検討している段階だが、お互いの文化のプレゼンテーションを実施することを考えている」と語った。

最後に、「ハワイ研修では自由行動の時間を取っている。店で商品を注文するだけでも英語や社会情勢の勉強になり、世界の今を知ることができると思う」と期待を述べた。（土田）

紙面割　表　岡部　裏　松井